

『Mind Charging』

第 45 回 発行：入試広報室 発行日：令和 2 年 5 月 30 日

映画『マトリックス』の名言



道を知っていることと実際に歩くことは違う。

みなさんの中にもマトリックスシリーズのファンはたくさんいると思います。あらずじは、キアヌ・リーヴスが扮する主人公『トーマス』の、もう一つの顔である天才ハッカー『ネオ』が、謎のメールを受け取る場所から始まります。ほどなくして出会った仲間になる人たちに、「この世界は、コンピュータによって作られた仮想現実だ」と告げられ、このまま仮想現実で生きるか、現実の世界で目覚めるかの選択を迫られます。現実の世界で目覚めることを選択したネオは、拳法などの修業を経て、コンピュータの反乱によって人間社会が崩壊し、人間の大部分はコンピュータの動力源として培養されていた現実世界と仮想空間を行き来しながら人類をコンピュータの支配から解放する戦いに身を投じていくというストーリーです。

誰もがあなたの夢や目標に理解を示し、応援してくれるわけではありません。夢が大きければ大きいほど、そんな人たちも多くなると思います。私はそういった人を『ドリームキラー』と呼んでいます。彼らは『なぜその夢が叶わないのか』を語り、みなさんの夢へのパワーを削ぎ落としにかかってきます。忠告を受ける冷静さは必要ですが、そんな声ばかり気にしすぎるのはどうでしょうか？『道を知っていることと、実際に歩くことは違う』のですから、みなさんの歩む道は、他の誰かは通れなくて、その道が間違いだと思っていたとしても、あなたは通れる正解の道かもしれない『自分だけの道』なのです。

以前このコラムで紹介した『マイケル・ジョーダン』は、『運命よそこをどけ、俺が通る』という名言を残しています。運命には逆らえないと言いますが、逆らっても叶えたい夢があるとしたら、そんな夢を持っているというだけでも素晴らしいと思います。なぜなら、夢は目標や課題と違い、本気で叶えたいと思った人にしか叶わないものだと思うからです。根拠や自信がなくても、それは努力していくうちに生まれます。でも、その全ては『本気で挑戦する』ということが前提に無ければ、夢を叶える前の段階も成立しません。自分だけの道を見つけ、しっかり歩けるようになりたいものですね。(編集委員：入試広報室 鈴木)

『マトリックス』(The Matrix)は、1999年のアメリカ映画。もしくは、それ以降のシリーズの総称でもあり、この映画を題材にしたアメリカンコミックのこと。SF映画であるが、香港映画のカンフーファイトのテイストも含んでいる。ストーリーの各所にメタファーや暗示を置き、哲学や信仰というテーマも表現している。従来のCGにはない、ワイヤーアクションやバレットタイムなどのVFXを融合した斬新な映像表現は「映像革命」として話題となった。1999年のアカデミー賞では視覚効果賞、編集賞、音響賞、音響編集賞を受賞。(Wikipedia 参照)